

発行所
動物資料展示館
旭川市
旭山動物園
☎ 36-1104



4月29日から夏期開園いたします。ぜひお越しください

ASAHIYAMA ZOO



マルミミゾウのナナ 今までありがとう、そして安らかに

突然の出来事

4月21日の夜中の2時頃、マルミミゾウのナナは飼育係と獣医が見守る中、静かに息を引き取りました。ゾウの寿命はおおよそ60年であるのに、ナナはまだ28才でした。あまりにも早すぎるナナとお別れに、旭山動物園そして、市民の方々に大きなショックを与えました。

別れのきっかけはある日突然やってきました。それはナナが息を引き取るちょうど一週間前のことでした。

4月15日夕方、飼育係が獣医を呼ぶ無線が鳴り響きました。キリンを迎え入れる準備などの共同作業を終え、それぞれが担当する動物舎の掃除や看板作りに励んでいたときのことです。ゾウの放飼場にかけてつけ、そこでみたナナの姿は・・・。

前後の右足を下にし、横になったまま動けませんでした。どうやらナナは寝ているのではなく、何らかの原因で立てなくなっていました。たまたまようでした。そこで、大がかりなナナの立ち上げ作戦がはじまりました。この日は肌寒い曇り空。麻袋やビニールシートをかけてナナの体温を保ちながらの作業でした。飼育係が約20人あつまつて、2トンもあるナナの体を押し上げようというのです。一時は3本の足で立ちかけましたが、起立には至らずそのまま横になってしまいました。その後、事務所の人や、工事現場のクレーン車がかけつけ、動物園総出で何とか作戦を続行しましたが、ナナは立とうとしませんでした。気がつけば日は沈んでおり、ナナの体調を考えると、この作戦は明日へ持ち越しになりました。

ナナの食欲旺盛な姿をみて、皆、明日の復活を願うばかりでした。



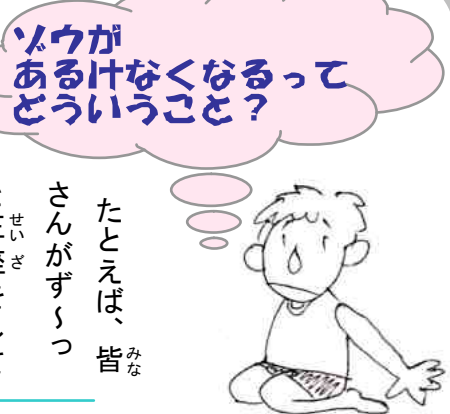
その後、担当の飼育係は一晩中、ナナに付き添いました。エサをほしがるナナの口元までエサをはこび、体力が回復することを願いつづけてきました。翌朝、その願いとは裏腹にナナの状態は悪化しているようでした。この日は雪が降るかもしれないとのこと。「ナナを寝室に運ばなければ・・・。」

ナナが横になったままでも寝室に運べるように、入口の門が解体され、クレーンがやってきました。その他、チェーンブロックやスコップ・平打ロープなど、ありとあらゆるものを使って飼育係総出の作業は続けられました。そして、ナナが倒れた翌日、ようやく寝室に帰ることができました。

ナナが立てない?!

以前、旭山動物園で飼育していたアジアゾウのアサコは、動物園ですごした28年間、横になって寝ることはありませんでした。それに対し、ナナは、足を放りだして横になって寝ることもありました。16年前の冬、ナナは横になったつきり自分で起きあがれなくなることが数回ありました。しかし、飼育係の助けで立ち上がると何事もなかったかのようにエサを食べていました。

しかし今回は、明らかに前回とは様子がちがっていました。



ゾウがあるけなくなるってどういうこと?

たとえば、皆さんがずりつと正座をしていたとすると、どうなりますか? 足がぴりぴりしてしびれてくるでしょう? そもそも足がしびれるということとは、足が体の下敷きになって、血のめぐりが悪くなるためにおこります。ナナも同じく足がしびれてきたのでしょう。人間の場合、足をほぐし、マッサージをして血流をよく

くすることができませんが、体の大きなゾウの場合はそうはいきません。人間の手足では寝返りを打たせてあげることもできません。その間にも体の重さは足にかかり、さらに地面に接している皮ふが、いわゆる「床ずれ」をおこします。さらに血流が悪くなり心臓に負担がかかってきます。ですから、横になっていられる時間が長ければ長いほど、ゾウの体力は奪われるのです。体の大きなゾウが自ら立てなくなるというのは、命を失うことにつながるとても大変なことなのです。

寝室にはいってからは・・・

ナナが寝室に運ばれたのは16日のこと。その後も、エサを口元へ持つていき、食べさせていました。その間にもナナの食欲は弱まっていき、乾草を食べなくなり、続いて野菜までも・・・。ついには好きなモノしか食べなくなり、4日後の20日にはエサをほとんど食べなくなりました。そして体温が37℃から33℃まで下がってしまいました。21日午前2時頃、担当飼育係・獣医が見守る中、ナナは息を引き取りました。

4月21日19時頃、寝室に運ばれたナナは、翌朝に息を引き取りました。